

令和四年度

事業の概要

肥後医育塾

年間テーマ

「三大疾病」高齢者の適切な治療」を開催

常任理事(事業担当) 片瀧 秀隆

日本人の死因上位を占める三大疾病「がん・心疾患・脳血管疾患」。その罹患者の多くを高齢層が占めています。高齢者を診る医療は若年成人を対象とする医療とは異なる特徴を持っていることから、「老年医学」という新しい概念も提唱されています。予防・早期発見に努めることはもちろん重要ですが、治療にも様々な選択肢があります。もしも患ったとき、どんな治療を受けることができるのか、今年度のセミナーでは、三大疾病それぞれの基礎知識をはじめ、「高齢者の適切な治療」について医療機関の診療連携の説明を交えつつご紹介いたします。

第七十六回は、七月三十日(土)に熊本市医師会館において、「高齢者の『がん』治療」意外と知らない、がんにかかった後のこと」と題して開催いたしました。

日本人の二人に一人がなると言われている「がん」。一言でがんと言っても種類は様々で、その種類や患者さんの状態、さらには年齢によって治療方法も異なります。セミナーでは、「化学療法」「放射線療法」をはじめ、診療連携により実現される「緩和ケア」など、高齢者向けに、がんにかかった後の治療に重点を置いてご説明があり、もしもの時の不安を小さくし、がんに向き合っていくためにも、適切ながん治療について講演者の方から講演がありました。

第七十七回は、十一月十三日(日)に熊本市医師会館において、「高齢者の「心疾患」治療」心疾患の種類とその治療」と題して開催いたします。

心疾患とは、私達の命をつかさどっている心臓に起こる病気の総称です。セミナーでは、心疾患の種類や発症年齢といった基礎知識をはじめ、高齢者にスポーツを当てて、「狭心症・心筋梗塞」や「心不全」の治療、「糖尿病と心疾患の関係」などについて詳しくご説明します。もしものときに備えて自分の体の状態を把握し、適切な治療を受けるために、大切な知識として学

びましょう。

第七十八回は、二月中旬～三月上旬予定で、「高齢者の「脳血管疾患」治療」突然の発症に備えて」(仮)」と題して開催いたします。

脳血管疾患とは、脳の血管に異常が生じることが原因で起こる病気の総称です。よく知られているものに「脳卒中」があります。セミナーでは、脳血管疾患の種類や症状といった基礎知識をはじめ、高齢者を対象とした脳卒中

総合生活情報紙「あれんじ」 健康・医学・医療・学術 記事の執筆・監修

副理事長 山本 哲郎

令和四年度も、熊本日日新聞社発行の総合情報紙「あれんじ」(タブロイド判十六頁三十五万部発行)の第一土曜日分の十面と十一面の見開き二頁について執筆・監修を担当いたします。

昨年度と同様に、メインの記事として「元気の処方箋」(最新の医学医療記事)を毎号掲載いたします。また、「子育て応援クリニック」(小児科関連の医学医療記事)(十面)も、読者からの希望が多いとのことで、毎号の掲載といたします。「慈愛の心・医心伝心」

の「薬物治療」や「外科治療」、「リハビリテーション」と医療機関の診療連携などについてご説明します。突然発症することが多い脳血管疾患、もしものときに備えて正しく学びましょう。

なお、いずれのセミナーも開催後約一月後に熊本日日新聞紙面に内容を掲載し、Youtubeにて動画配信の予定です。

また、本財団ホームページにも掲載いたします。

(女性医療人によるリレーエッセイ(十一面)はこれまで通り八回(五、六、八、九、十一、十二、二、三月)掲載いたします。「四季の風」(季節の新作俳句)は、これまで同様四回(四、七、十、一月)掲載いたします。

本年度も、「あれんじ」に掲載後全ての記事を「肥後医育振興会」のホームページに転載し、どなたでも自由に読めるようにすることにしております。

